

## テーマ『能動的な学生の育成』

### 大学の役割

大学の役割としては2つ「学生の育成」と「社会貢献」を挙げた。

1. 義務教育期間を経て、色々な観点から自立出来る社会人へと「学生の育成」をする必要があると考えた。
2. 社会に求められる力を身につけさせることで多様な方面で「社会貢献」できるよう導く必要があると考えた。

### 大学の現状

大学の現状としては以下の通り3つ挙げた。

1. 「社会のニーズと現状の大学就職活動状況に差がある」ということで、就活の比重が大きすぎることで、学業が疎かになってしまう傾向にある。
2. 「学生の目的意識の欠如」ということで、学生の中には卒業すること自体が目的となっており、卒業するために授業を受ける（単位取得する）傾向にある。
3. 「つまこみ型の授業」ということで、発言のタイミングがない講義形式の授業が多い傾向にある。また、教員の教え方により学生の授業に対する姿勢が大きく変化することも実情としてある。

### 役割を果たすために必要な取り組み

社会貢献できるような社会人として学生を育成するため、どのような取り組みが必要かを以下の通り2つ挙げた。

1. 大学資源を有効活用し、「自主的に学習できる環境を提供」することで、学生に幅広い視点を持って学習させる必要があると考えた。
2. 「教員・学生・職員相互のコミュニケーション基盤作り」が大切であり、学内 SNS のようなツールを提供することで、学生への全面バックアップが必要であると考えた。

### テーマの選定

以上の話し合いの結果、本グループでは受身の学生が多い現状を問題とし、討議テーマを「学生が行動したくなる環境を提供し、能動的な学生を育成することで、社会に貢献する」とした。

### 問題点の深堀

あるべき姿と現状の違いを洗い出すことで、以下の通り問題点を整理した。

まず能動的な学生とは、自主性を持って行動することができる学生と考え、問題解決能力及び課題発見能力を向上させる必要がある。

しかし現状は、「学校がつまらない」「授業がおもしろくない」など授業形態の問題も原因と考えられ、学習意欲の低下が見られる。

以上のことを踏まえ、本グループでは、教員・学生・事務の連携が大切であると考えた。

### 解決策の検討

まずそれぞれの立場で必要なことを考え、次にそのためにはどのような連携が必要か話し合った。

#### ●学生に必要なこと

- ・学生に刺激を与える（留学、インターン、実習等）

- ・授業に対する義務感をなくす（授業時間 90 分という時間枠の考えを取り払う）
- ・達成感を与える（成功体験を経験させることでモチベーションを上げる）
- ・自主性を育てる（講義中に何回は必ず発言をするというルールを設け、学生同士で相互評価を実施する）

●教員に必要なこと

- ・教員の質向上（FD 活動や授業評価アンケートにて授業形態の振り返りを行う）
- ・学生の学びを活性化させる努力（教員間での公開授業を実施し、教え方を見直す）

●職員に必要なこと

- ・職員の質向上（職員も教員の授業参観をする）
- ・職員の意識改革（職員自身も学生の育成に携わっているという認識を持つ）

●学生—教員

- ・学生と教員のコミュニケーションを密にする（学内 SNS などでのコミュニケーションの促進を図る）
- ・学生の意識調査（半期に一度、学生面談を実施する）

●学生—職員

- ・学生が迷わないための環境作り（キャリア支援や学生に有効な情報を提供する。初年次教育を行い、大学で勉強するために必要な知識をまず教える）

●教員—職員

- ・教員と職員の意識合わせ（学生の現状など情報共有を密にする）
- ・学生指導をサポート（教職員の双方向から学生をバックアップする）

## まとめ

「自分で行動しない学生が多い」という現状を問題と捉えた本グループの話し合いでは、学生が行動したくなる大学の環境を提供する必要がある、そのためには教員と職員が双方向から学生に刺激を与えることが大切だと考えた。能動的な学生育成と一言で言っても、色々な方面から社会で活躍できるよう働きかける必要があると確信できた。